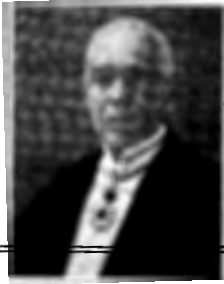


平成27年12月3日



# 根本正顕彰会会報 第80号

発行者 根本正顕彰会

## 目次

- |   |         |      |
|---|---------|------|
| 1 巻頭言   | 会長 會澤義雄 | 1 頁  |
| 2 「根本正顕彰フェスティバル」報告<br>(附:新聞記事) 資料は別添)                       | 事務局     | 2 頁  |
| 3 「根本正ゆかりの地を訪ねる旅」報告<br>(附:資料は別添)                            | 事務局     | 6 頁  |
| 4 「公民館まつり」(報告)  | 事務局     | 9 頁  |
| 5 お知らせとお願い<br>(「ホームページ作成の遅延」ならびに<br>「『会報』発行80号特別記念号への原稿依頼」) |         | 10 頁 |
| 編集後記  |         | 12 頁 |

### 【お知らせ(予告)】

#### 根本正顕彰会公開講座

日時 平成28年2月14日(日) 13:30~15:30

会場 那珂市中央公民館 2F 講座室

内容 講演

テーマ 「根本正の思想に影響を与えた人 中村正直(敬宇)」

講師 理事 小林茂雄氏

## 巻 頭 言

会 長 會 澤 義 雄

今年は戦後70年を迎えた節目の年です。第2次世界大戦では多数の尊い人命が失われました。

今尚、日本では沖縄の普天間飛行場（宜野湾市）から辺野古（名護市）への移設を巡り、政府と沖縄県がその是非を巡り法廷の場で争うようになっています。沖縄が第2次世界大戦では、我が国の前線基地となり大勢の犠牲者が出たことを思うと胸が痛みます。そして私達が今享受している平和の大切さを肝に銘ずると共に世界の国々と協力して守っていかねばなりません。

しかし、国際社会に目を転じると民族主義的対立も多く、更に近年はIS（イスラム国）と称する人達による狂信的行為によって各地で多くの人達が殺害され、メディア上に生々しい殺害状況を掲載したり、子供達を誘拐したり何を目的に行っているのか理解に苦しみます。自然権とも云われる基本的人権も個人の尊厳もないがしろにされています。

過日にはエジプトを観光で訪れていたロシアの旅客機がシナイ半島上空で撃墜され、多くの人命が失われました。それについてISが犯行声明を出しています。ごく最近ではフランスのパリで銃の乱射、自爆攻撃で大勢の犠牲者が出ています。しかも狙われた場所がコンサートホール、サッカー場やレストランなど庶民が無防備で生活を楽しんでいる場所を襲ったのは卑劣極まります。フランスのオランド大統領は、戦争だと云っております。これからもアメリカ合衆国・フランス・ロシア・イギリスなどを狙うと声明を出しております。シリアの混乱から膨大な難民がギリシャ・イタリアなどを經由してEUの国々に流入しています。このような残虐な殺戮・混乱を收拾するには、混迷を続けているシリア問題の解決が鍵を握っているように思います。そのためにはアメリカ、ロシアを中心とする国々が協力することが大切であると云われています。

大部分のイスラム教徒は、イスラム教の精神に反する行為だと声明を出しております。真のイスラム教徒とヨーロッパ人の分裂を目指しているというなら誠に残念なことだと思います。このような国際問題が收拾され平和な国際社会が訪れることを願わずにはいられません。

話は国内問題になりますが、我が国でもマスコミで報じられるように殺人事件が度々起きているようにも思います。基本的人権や個人の尊厳が粗末に扱われているように思います。根本正はムルフォード著『THE NATION（国民論）』を翻訳して紹介しています。その中で「人は神を模型として造られたる生物なるが故に其神聖なること論を俟たず而して人の権利の神聖なる所以も亦実に人の神的生物なるに因由す」と。また「人は神に豫りて造られたる生物として天然固有の権利を有す。然れば人権の基礎は人為にあらずして神にある。若しも人に自然固有の権利なきものとするれば人民相互の関係分明なることを得ずして人間社会は混沌たる暗黒世界ならんのみ」と記されています。お互いに噛みしめたい言葉だと思います。そしてそれぞれがより健全で誰もが安心できる社会を協力して築いて行く不断の努力が大切であるとしみじみ感じております。

## 平成27年度根本正顕彰フェスティバル（報告）



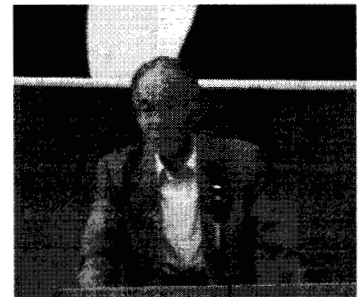
8月30日（土）午後1時30分から午後4時まで、ふれあいセンター「ごだい」で開催されたフェスティバルには80名からの参加者で盛会裡に終了した。

根本正先生の生誕地であると同時に増子輝雄副会長の精力的な案内活動が効を奏した結果であった。

今後、ふるさとの先達を併せて紹介するフェスティバルが、どれだけ各地域の人々に認識されるか期待すると共に、認識していただけるよう努める大きな任務を担っている。

### 増子輝雄副会長主催者あいさつ

昨年度那珂市が根本正先生はじめ4人の名誉市民を選定した。これを受けてこの顕彰会としては、今後再度市内各所で顕彰フェスティバルを開催し、根本正先生とそのほかの名誉市民を併せて市民の皆様に紹介し、共にその遺徳を偲び地域の発展に寄与できればと思っている。その第1回として生誕の地に戻り、本日は「根本正の人物像」と「根本正のふるさと五台の歴史的背景」を学ぶ時間とした。新たな根本正顕彰フェスティバルのスタートである。今や五台地区は根本正を生んだ地区に値する那珂市の文教地区として確実に発展していることに誇りを覚える。顕彰会としては、今後も調査研究を進め、根本正先生の精神を弘めてまいりたい。



### 来賓：松崎正人 那珂市副市長ごあいさつ

顕彰会が根本正先生の遺徳を偲び活発に活動が続けていることに敬意を表したい。那珂市としても、名誉市民として選定し、また学校教育の中や歴史民俗資料館の展示に於いて紹介するなど、根本正先生の精神を子供から大人まで幅広い層に認識されるよう努めている。新フェスティバルとのこと、顕彰会の今後のさらなる発展を期待している。



### 来賓：先崎 光 茨城県議会議員ごあいさつ

「根本正先生を生んだことは五台地区の誇りである」とのあいさつに感動した。この「誇りを持って生きる」ことは人間として大切なこと、これを失うことは人間を捨てることに等しい。一人の政治家としても、日々の生活に於いてこの「誇り」を胸に、根本正先生の不屈の精神を見習い情熱を持って邁進してまいりたい。

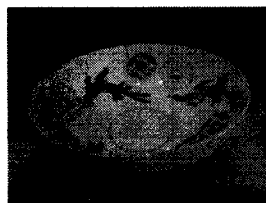
- ③ 江戸時代になって清水寺が建立された。当事の伽藍配置の見事さに感歎する。境内には宝永3年(1706)建立の市内最古の地藏尊石像が祀られている。清水洞之上自然公園は歴史的遺産にも注目して欲しい。清水原は水戸藩の軍事訓練地・鷹狩りの名所でもあった。
- ④ 水戸藩主に褒賞された野仲の親孝行の善重と与重兄弟、その精神を弘めていきたい。
- ⑤ 東木倉には、庄屋を務めた根本家と並んで郷土として藩政にも寄与した後藤家がある。子孫は教師を務め、農村不況に喘ぐ子弟への慈愛の念、農村改革に立ち上がった罔彦・信彦兄弟の存在も忘れてはならない。
- ⑥ 勤皇事績は3点、西木倉戊申青年会による「植桜の記碑」が明治41年(1908)に建てられた。昭和4年(1929)、昭和天皇の茨城県水戸市での陸軍大演習の視察の際、中台から東木倉・西木倉にかけての旧清水原一帯を御巡幸、それを記念しての「巡幸永念の碑」は五台小学校に建立された。昭和9年(1934)今上陛下の御降誕を祝って五台村戊申青年会・田向青年団によって建てられた道標の存在が明らかになった。さらにこの8月下旬、豊喰地区道路角に紀元2600年(昭和16年)を記念して豊喰村在郷軍人会によって建てられた戦死者の霊墓入口を示す標柱「墓道」の存在が明らかとなった。

五台地区には、国家の慶事や国難に敏感な気風・美風が漲っていたのだ。根本正先生は、このような地域の精神に浴しながら成長していったことを再認識したい。

果たして、「根本正顕彰フェスティバル」に参加してわがふるさとを誇りとぞ思う」の心境になれたであろうか。願わくば、「〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 わがふるさとを誇りとぞ思う」の上の句を、那珂市の人々それぞれが考えた短歌大会ができたらと思う。

【ゆかりの品々を展示】 (根本喜代寿さま提供)

- ① 「義公壁書」(大正2年元旦:根本正自筆:縦軸装)
- ② 「東木倉村絵図」(天保期:縦軸装)
- ③ 「未成年者禁煙法成立:銀座教会の感謝状」(明治33年:横軸装)
- ④ 「抹茶碗」(大正2年明治天皇より拝領)
- ⑤ 「ふまれても根強く忍べ路芝のやがて花咲く春をこそまで」(珍しい額装)



④

③ (安藤太郎ら署名:初公開)

⑤

## 【講演】



### (1) 會澤義雄会長

「根本正の生涯」－ 未来を見据えた不屈の政治家・根本正 －

(詳細は添付資料参照)

根本正先生の紹介について、今回の特色は「未来を見据えた」と捉えたところ新しい写真資料を用いたところであろう。内容は

#### ① 根本正と義公御壁書

社会教育は自制の精神を養うこととして「名刺」を紹介した。

#### ② カルチャーショックを受けた根本正

西洋文明と英語への憧憬からアメリカ留学を決意する。

常陸太田市立賀美小学校校庭内の豊田天功銅像とクリスチャン中村 正直訳『西国立志編』を紹介。

#### ③ 留学を目指して

前途を祝す中村正直。上野の谷中墓地内の中村正直墓所を紹介。

#### ④ 待望のアメリカで学んだこと

「神はかたよらず」平等の精神が根底となる。

#### ⑤ 帰国、そして板垣退助の誘いで政治家を目指す

誘いを受ける程の板垣退助との出会いは注目に値するが、更に裏付け資料を求めたい。

指路協会・住吉協会・メキシコ出張辞令案・同復命書・移民地探検訓令案・サンパウロの移民収容所・帰京届・穴戸丸紹介。

#### ⑥ 青少年の健全育成を求めて

未来を担う青少年の健全な育成のために未成年者喫煙・飲酒禁止法成立に奔走実現させた。

鯨飲家安藤太郎の妻文子が祝いに贈呈された酒樽を割り棄てる挿絵紹介。内村鑑三書「働勞酒」・東京青山墓地の安藤太郎墓所紹介。

### (2) 仲田昭一事務局長 「五台地区の歴史」 (詳細は添付資料参照)



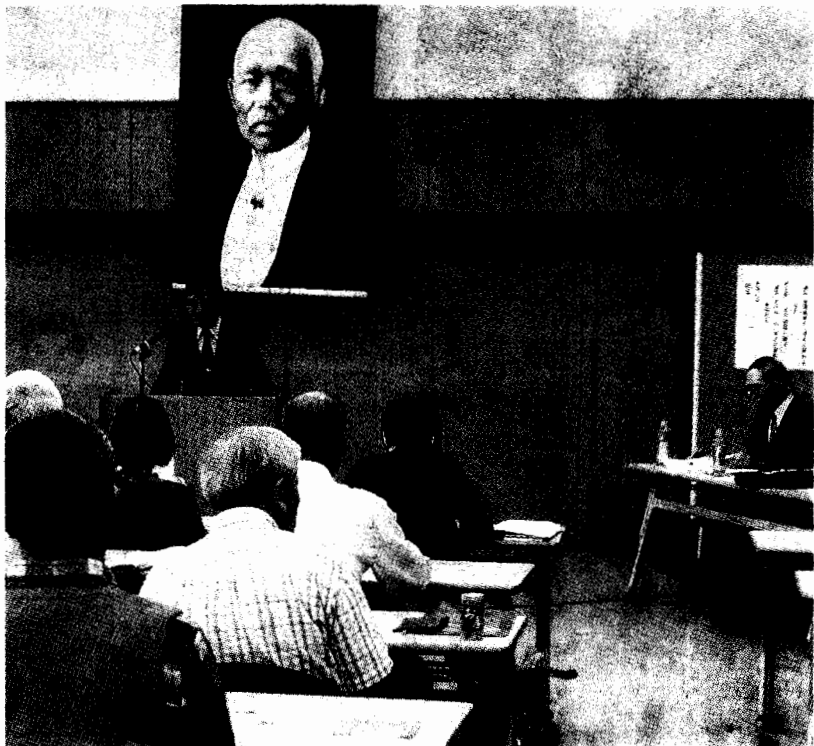
根本正先生は「ふるさと」にどのような思いを抱いていたろうか。「五台村を禁酒村に」と念願していたことは、常にふるさとの将来に思いを馳せていた証拠でもある。自分のふるさとの歴史を知ることで、「わがふるさとを誇りとぞ思う」の心を育てたいものである。根本喜代寿様方から東木倉村絵図をお借りしてきた。これによって、170余年前の様子がよく分かる。これまで根本家が大切に保存伝承されてこられたことに感謝したい。

#### ① 那珂川沿いの台地には多くの古墳があることに注目。

② 中世の五台地区は江戸氏の支配下にあったと考えられる。天正17年(1589)太田の佐竹義重に攻め滅ぼされたが、江戸氏の家臣永井外記は中台の戦いで戦死、その遺骸は息栖神社の後方に埋葬され、外記塚と呼ばれていた。現在は果たして如何、その存在を確かめたい。近くの女郎ガ池は城主江戸重通夫人とその女官が入水した所という。

# 根本正の偉業顕彰

## 那珂 フェスに市民ら80人



那珂市東木倉出身で  
明治・大正期に衆院議  
員を務めた根本正(1  
851-1933年)  
の偉業を振り返る「郷  
土が生んだ不屈の政治

漫遊記  
本格宇焼酎  
明利酒類  
水戸(247)  
6111

家 根本正顕彰フェス  
ティバル」が8月30日、  
同市後台のふれあいセ  
ンター(こ)だいで開か  
れ、市民ら約80人が参  
加した。根本正顕彰会

催。

根本正の偉業を振り返ったフェスティバル 那珂市後台

会沢会長は「未来を見据えた不屈の政治家 根本正の生涯」をテーマに講演した。16歳で水戸藩の役人になり、外遊土産の時計やマツチに出合い高度な西洋文明に衝撃を受けたことや27歳でキリスト教の洗礼を受け、約10年間アメリカに留学していることを紹介。

帰国後は、板垣退助の誘いで政治家を目指し、1898年衆院議員になった。アメリカ留学で、青少年が酒やたばこ、麻薬などで破

滅する姿を見て、子どもたちの健全な精神と身体を守るため、未成年者喫煙禁止法や未成年者飲酒禁止法制定に向けて奔走するなどを挙げ、根本正の功績を振り返った。

(小田内裕司)

## 平成27年度根本正顕彰会「ゆかりの地を訪ねる旅」(報告)

テーマ 「根本正と高層気象観測所の設立」

日時 10月7日(水) 那珂市リサイクルセンター 出発:午前8時10分 帰着午後5時5分

参加者 41名(会員20名、会員外21名)

方面 ① 海難事故遭難漁民供養碑(ひたちなか市華蔵院)

② 筑波宇宙センター(つくば市)

③ 気象庁高層気象台(つくば市)

④ 地図と測量の科学館(国土地理院:つくば市) (各項目説明資料は別添)

快晴に恵まれた初秋の一日、根本正の国民の安全安心を求める情熱の末に実現に至った高層気象観測所の意義を十分認識できた研修会でした。

① 今から105年前の明治43年(1910)3月12日の暴風雪による漁船民の大遭難事故。平成23年3月11日の東日本大地震。3月11日頃に異常気象の起こることを再認識しておきたい。追善奉納相撲を行い遺族への弔意を表した横綱常陸山の至誠は、根本正の国民への慈愛の念とともに心に刻んでおきたいものです。

(車中及び供養碑前での説明は増子輝雄副会長)



「遭難漁民追薦之碑」の前で

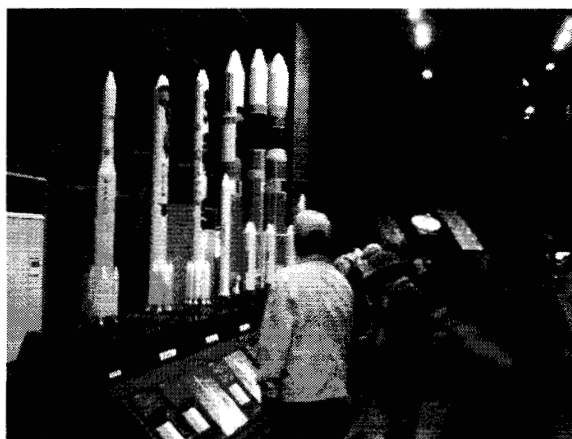


② 筑波宇宙センター 宇宙へ飛び出し宇宙旅行を体験した気分を味わう。日本の科学力を実感することができました。(車中説明:小林茂雄理事)

宇宙ロケットの発射台は種子島、内之浦と日本の南端鹿児島県に集中しているのはなぜか？地球の自転力、最速は赤道直下であり、その回転力を利用して効率よく打ち上げるのには赤道近くが最適とのこと。適地は自ずから鹿児島県となるとのこと。

宇宙船の内部も見学、無重力の世界を体験した感じ。日本人宇宙歩行士が陸続と生まれ出ていることは日本人の底力を示すことであり誇りでもある。しかし、ソ連の宇宙飛行士ガガーリンの「地球は青かった」の名言は永遠なものである。そのすばらしい地球を大切にしなければならない。

設定時間に解説案内があるのでこれを利用するとより理解しやすい見学となる。



### ③ 高層気象観測台

さすがにここでは根本正の尽力がパネルで紹介されていました。ラジオゾンデ(無線観測)とオゾンゾンデ(オゾン観測)をあげて観測が続けられていることを認識、地上での気象観測と屋上での紫外線等の観測などを学ぶ。

南極で話題となったオゾンホール拡大が続いていたかと思いましたが、世界的に「フロン規制」が行われた結果、縮小しつつあることを知り、人間の英知と努力で環境保護は叶うことを再認識する。

なお、ゾンデ打上は風も強く気象状況が悪く中止となりましたが、會澤会長が前週の打上日に見学写真撮影をされていました。ビデオ放映もありましたが、会長の写真で確認することができました。

(車中説明:會澤義雄会長)







地上観測所で、かつて小学校にあった「百葉箱」が据えてあって懐かしい思いでした。

④ 国土地理院



ふるさとの今昔を確認



地球の上に乗って、日本の東西南北端の島を確認

〈参加者の声〉

- ① この顕彰会に入会して初めての研修会でしたが、高層気象観測所は新鮮な印象でした。良いところを見学できて嬉しく思いました。 (猪狩光弘さん)
- ② この研修会には数回参加していますが、高層気象観測所は初めてでした。ここも根本正の功績の一つとは始めて知りました。 (岩下栄一さん)
- ③ 誘われて参加しましたが、滅多にいけない高層気象観測所や国土地理院は印象深く良い研修になりました。お世話になりましたことに感謝いたします。 (中庭むつ子さん)
- ④ 華蔵院の供養塔が強く印象に残りました。海難事故・大惨事のことはいまだ知りませんでした。また、名横綱と言われた常陸山が追善供養・遭難遺族の方々にまで弔慰を示されていたことに驚くとともに深い敬意を抱きました。 (根本景子さん)

## 平成27年度那珂市中央公民館まつり（報告）

1 期 間	平成27年11月20日(金)～11月22日(日)	
2 展示内容	大テーマ「根本正を育んだふるさと五台」 〈小テーマ〉	〈担当者〉
	根本正顕彰会の歴史	(小林茂雄理事)
	根本正ゆかりの地を訪ねる旅	(小林茂雄理事)
	① 五台村の古墳群	(山田正巳理事)
	② 豊喰本泉寺と唯円	(會澤義雄会長)
	③ 女郎が池と息栖神社・外記塚	(仲田義一副会長)
	④ 源長寺・大仏池	(小林茂雄理事)
	⑤ 清水寺	(仲田昭一理事)
	⑥ 孝子善重・与重	(増子輝雄副会長)
	⑦ 「植桜の記碑」	(鈴木正矩理事)
	⑧ 昭和天皇の行幸	(横地富子理事)
	⑨ 後藤家と罔彦・信彦兄弟	(仲田昭一理事)



(展示会場)

人にはその家伝来の血筋と家風があり、それを取り巻く生活環境や地域の歴史と風土が成長に大きく影響を与える。根本正が13歳まで育った東木倉村を中心とする中台村・後台村・西木倉村・豊喰新田村など五台地区の歴史・史跡を訪ねることで、根本正の内面に迫ることができようかと役員全員で分担調査してみた。

古墳時代から近代までの9つのテーマから、根本正がこれらの地に触れながら多感な青春時代を送ったことが想像できる。また、根本正の後輩たちもその精神を承けながら改革心をたぎらせていった姿も浮かんでくる。「植桜記碑」「孝子善重与重顕彰碑」「昭和天皇巡幸永念記念碑」などの建立からは、地域の歴史を誇る住民たちの熱意が伝わってくる。

## ホームページ作成遅延のお詫び

去る 10 月 7 日行われました

「ゆかりの地を訪ねる旅（ひたちなか市、つくば市方面）」のホームページが未だ公開できず誠に申し訳ありません。

原因は

7 月末アナウンスされたマイクロソフトの新 OS (=Windows10) にアップグレードしたところ、この OS の一部にバグがあり、動画及び音声処理が正常に作動しない事が判明しました。

現在マイクロソフトのエンジニアが対策に当たって居ますが、完全回復迄にはまだ時間が掛る見込みです。

なお、Win 8 /8.1、Win7 のお客様は正常に作動します。

## 【原稿募集のおねがい】

根本正顕彰会会員各位

根本正顕彰会  
会長 會澤義雄

日頃は、根本正顕彰会の会活動に多大なご尽力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、本会の広報活動の一つである『根本正顕彰会会報』も今回で第 79 号を迎え、12 月には第 80 号を発行する予定です。そこで、第 80 号発行を会活動の大きな区切りの一つとして、「会員の声」を中心とした別冊『会報』第 80 号発行記念特別号（仮称）を第 80 号とは別に平成 28 年 3 月に発行するよう準備を進めております。なお、この 3 月には第 81 号を発行する予定です。つまり、年度末の 3 月には『会報』第 81 号と「第 80 号発行記念特別号」と併せて 2 冊発行したいと思っております。

つきましては、会員の皆さまには、下記の要項にて原稿をお寄せいただければ幸甚に存じます。何かとご多用のところとは存じますが、お気軽にお考えいただき、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

### 記

- 1 内 容 日頃の日常生活の中での随想、会活動への感想・ご意見、読後感、写真を含む資料等の紹介、論文、その他
- 2 規 格 ① 原稿はパソコン入力で作成する。不可能な場合は家族を  
含 めて知人に依頼する。（どうしても無理な場合は手書き  
と  
する）  
② 字体は明朝体、 文字の大きさは 12 ポイント  
③ 文字数は A 4 版（40 字× 40 行）原則 1 枚（1 ページ）以  
え 内とするが、この 1 ページ内での長短は問わない。たと  
え ば 1 / 2 ページでも、1 / 3 でも、2 / 3 でもよい。  
ただし、論文はこの限りではない。
- 3 原稿〆切 平成 28 年 1 月 20 日（木）
- 4 提出先 仲田昭一事務局長 宛て  
〒番号 311-0121 （電話 029-298-7562）  
住 所 茨城県那珂市戸崎 3486-2  
メール kido.okiyama@gmail.com

## 【編集後記】

- ① 顕彰会活動の主体の一つである「顕彰フェスティバル」、これまでの「根本正の紹介」を中心に据えることは不変であります。ほかに内容を一部変えて、会場となる地域の人的遺産を含む歴史遺産並びに根本正と関連する人物に光を当てる方法を以て新たなスタートとなりました。今回は、「根本正を育んだふるさと五台」。何とも響きの良いテーマでした。現在も自分のルーツを探って東奔西走される方が大勢見られます。先祖を尋ねることは、その先祖を形成してきたさまざまな歴史的要因を確認することであり、育んだ環境も併せ認識していくことでしょう。

それら先祖達が辿ってきた生き方の善し悪しを知ると共に、自分の生き方を求め定めていくこと、先祖の良き所を生かして現世に貢献する覚悟を持ちたいものです。

今回の「フェスティバル」での発表が、「那珂市中央公民館まつり」の展示発表へと結びついたことはお互いに喜び合いたいと思います。

根本正も浴びた五台の風を知り わがふるさとを誇りとぞ思う (住人詠)

- ② 「根本正ゆかりの地を訪ねる旅」も、「現地に立つ」の意義を十分に味わうことのできる好企画です。先に訪れたことのある同じ場所でも、その時々においてさまざまな条件が変わりますから、各人の視点も感覚も、理解も変わってきます。常に新鮮な何かが発見できるものです。「根本正」の一端に触れると共に各地のさまざまな遺産に触れる機会、創意工夫を重ねながら持ち続けたいものです。

今回は、悲惨な大災害から逃れる・防ぐためという現実的な必要性から確かな情報を得るための高層気象観測所でありましたが、あこがれの「宇宙船」の内部を覗くこともできました。かつてのガガーリン少佐の「宇宙は青かった」との名言、世界の住民一人ひとりが「宇宙船地球号」の意味を理解し、世界の平和を実現したいものです。會澤会長の「巻頭言」にありますように、現在中東を中心とした宗教や民族間の対立が激化しています。歴史的背景をもった対立の解消は厳しい現実ではありますが、宗教間の融合・融和はできないことではないはずです。風土の問題もありますが、「許し・赦し」のない宗教は意味がありません。「八百万の神」観や「大乘仏教」観を持った大和民族の「おおらかさ」に、改めて幸福感を覚えます。

併せて、「防災」は他人任せではなりません。他人の勢にしてはなりません。行政の責任もありますが、日頃自らに判断力を付ける努力も欠かせないことであることを肝に銘じておきたいところです。

- ③ 日本の11月23日は「勤労感謝の日」となっていますが、「勤労できることに感謝する」「勤労に対しての休息日」では意味が通りません。ある日のラジオからは「家庭婦人には勤労感謝の日はありません」との「声」が流れていましたが、「休息日」としか捉えられていないことを思います。古来からの精神文化であった「収穫物を神に供えて天地の恵みに感謝する日」であることを変えられてしまったのは、占領政策による日本の歴史伝統の否定によるものです。「感謝祭」は世界各地に見られます。有名なミレーの描いた「晩鐘」の意味するところを素直に見つめ直したいところです。

「晩鐘」に感化された水戸の農本主義者でもあった橘孝三郎、日本の国土を見つめ「開かれる大地はまだまだたくさんある。日本人は「国外移民ではなく国内開発に目を向けよ、そこには他民族との摩擦もない」と喝破していました。「土を大切にし真心しんしんを持って耕かしていこう」との信念でもありました。それだけに、収穫と神への感謝を表す「新嘗祭・神嘗祭」を大切な「お祀り」としていました。共感するところ大きいものがあります。 (仲田(昭)記)